



幸福度日本一の静岡県

# 令和7年度 ウェルビーイングの取組成果

令和8年5月27日

静岡県企画部

# ウェルビーイングの取組の変遷

- 先進地調査 (富山県等)
- 職員研修 (企画職員)

- R6県民幸福度調査
- ウェルビーイングウィーク (知事新聞対談)

- 職員研修
  - ・ 幹部職員
  - ・ 課長級職員
- 第1回推進会議

- (株)PoliPoliとの連携協定
- 企業による事業提案
- フィンランド現地調査

- R7県民幸福度調査
- ウェルビーイングサミット

鈴木知事  
就任  
R6.5月

■ 総合計画(経営方針)に  
ウェルビーイングを  
位置付け

■ 庁内体制  
整備  
(CWO設置)

■ 幸福度日本一に  
向けた政策パッケージ  
(R8予算編成方針)

■ しずおかウェルビー  
イングプラン策定  
(静岡県総合計画)

2024年度 (令和6年度)

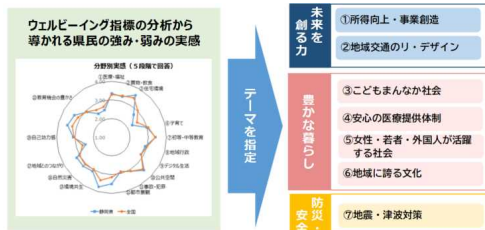
2025年度 (令和7年度)



第1回ウェルビーイング推進会議



職員研修



幸福度日本一に向けた政策テーマ



企業による事業提案  
(企業ピッチ)



幸福度日本一の静岡県  
新しい県政ロゴマーク



しずおかウェルビーイングプラン



ウェルビーイングサミット



PoliPoliとの連携協定

「ウェルビーイングの視点」を県政運営に取り入れた、「静岡県総合計画～しずおかウェルビーイングプラン～」を策定(令和8年2月)

## 1 目指す姿 幸福度日本一の静岡県

県民一人ひとりの幸福実感を重視するウェルビーイングの視点を県政運営に取り入れ、県民が安心して幸せを実感できる静岡県を目指す。

## 2 県民目線に立った政策立案

従来の客観的な指標に、主観であるウェルビーイング指標を加え、多角的に分析を行うことで、県民の目線に立った政策立案を進める。



## 3 政策体系と行政経営

- ・ 7つの政策を、「未来を創る力」「豊かな暮らし」「県民の安心」の3つに分類。
- ・ 効率的で効果的な行政を展開し、各政策を下支えする。

I-1

産業

I 未来を創る力



II-1

子ども・  
教育

II 豊かな暮らし



I-2

環境・  
エネルギー

I 未来を創る力



II-1

健康福祉

II 豊かな暮らし



I-3

観光・交流  
インフラ

I 未来を創る力



II-3

暮らし・  
文化

II 豊かな暮らし



III-1  
防災・安全

III 県民の安心



行政経営

徹底した  
行財政改革の  
推進

県庁内の理解促進と意識醸成のため、南雲岳彦氏（県フェロー）を講師に迎え、ウェルビーイング（WB）に係る研修会を実施

## R7幹部職員向けウェルビーイング研修

<月 日> 令和7年4月15日(火)

<受講者> 幹部職員(本庁局長級以上) 約110名

<内 容> WBの概要や指標を用いた政策デザイン



## R7ウェルビーイング指標活用研修

<月 日> 令和7年5月27日(火)、28日(水)

<受講者> 関係課長等 約20名×2回

<内 容> WB指標を活用した政策立案手法

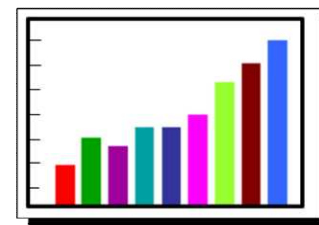


## 県民アンケート調査を実施し、県民の幸福実感の現状を把握

### 令和6年度「幸福度に関する県民意識調査」

デジタル庁の「地域幸福度（Well-Being）指標」を活用

- ＜実施時期＞ 令和7年1月
- ＜調査対象＞ 県内在住18歳以上の男女（5,000人）  
※有効回答率：41.6%
- ＜調査方法＞ 郵送・インターネット



今後も**毎年度調査を実施し、経年変化**を把握・分析

【令和7年度調査】 令和8年1月実施

令和8年度当初予算に向けて、多様な視点から事業を立案

## 幸福度日本一に向けた政策パッケージ

### ー政策立案プロセスの複層化ー

※知事指示 (R7.7)

#### ○ ウェルビーイング指標に基づく事業立案

- ・ 知事が指定した政策テーマについて、挑戦的な事業を立案
- ・ 県民幸福度の調査結果を踏まえ、幸福実感を高める事業を立案

#### ○ 企業提案

- ・ 県民の幸福実感を高める企業提案を募集し、事業立案につなげる

※民間プラットフォームを活用した「ウェルビーイング創出プロジェクト」  
(民間資金を活用した「ゼロ予算事業」)も実施

#### ○ 職員提案

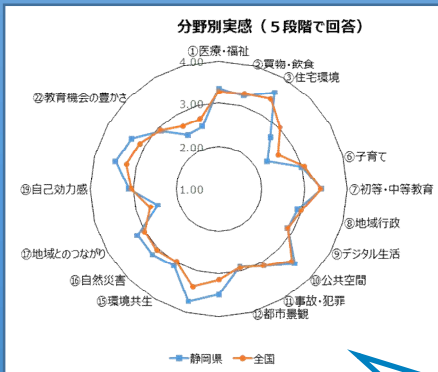
- ・ 職員一人ひとりの柔軟な発想を活かした県政の課題解決につながる政策等の提案を募集

- ・従来の客観的指標に加え、**県民の幸福実感を重視した政策立案**を展開
- ・**ウェルビーイング指標**の分析結果をもとに事業を立案

## 多角的な視点から分析

- ・ 県民の実感と客観的指標の関係
- ・ 年代、性別、地域ごとの特徴 など

### ウェルビーイング指標



### 客観的指標

統計

事業実績

など

政策分野毎の  
強み・弱み

新しい政策の立案

県民目線に立った  
事業手法の見直し

- ウェルビーイング指標の分析結果をもとにテーマ(行政課題)を設定し、**県内外の企業から事業アイデアを募集**
- 選定企業が**知事などに直接ピッチ形式でプレゼンテーション**を実施

## ～募集テーマ(行政課題)～

### 教育機会の豊かさ

生涯学習の機会確保により、「学びたいことを学べない」をゼロに

### 文化・芸術

東部地域の若者を対象とした文化・芸術振興

### 移動・交通

交通空白の解消

### 遊び・娯楽

県民をワクワクさせる娯楽機会の創出

### 多様性と寛容性

アンコンシャス・バイアスの解消による地域活力の向上

### 自然災害

伊豆半島地域の防災意識の向上



## (株)PoliPoliとの連携協定

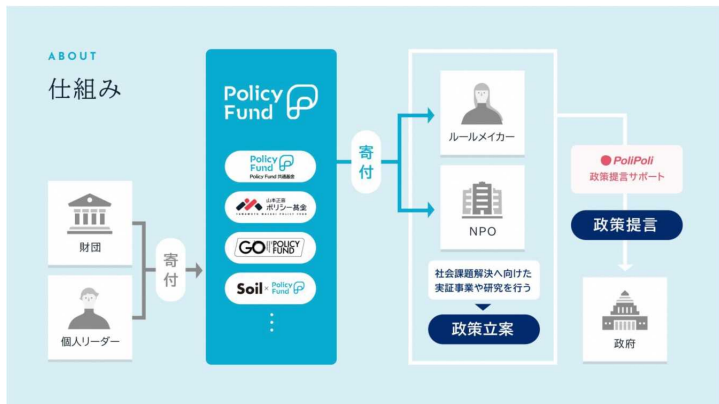
### 県民サービスの向上及び地域活性化を 図る連携協定を締結 (R7年6月17日)

#### 【連携事項】



#### ①基金を活用した実証実験等の 支援

ウェルビーイング推進をテーマに、  
非営利団体等から事業提案を募集し、  
「Policy Fund」を活用して実証を支援



#### ②県総合計画に関する意見募集 及び施策提案

R8政策分野指定型のテーマについて、  
「PoliPoli Gov」を活用して  
県民意見等を募集し、県に施策を提案



## 主観指標

Q 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある



(参考：客観指標)

<開業率の推移>

(単位：%)

区分	H30	R1	R2	R3	R4	<他県の開業率(R4)>	
全国	4.4	4.2	5.0	4.3	3.9	神奈川県	4.2%
静岡県	4.0	3.9	4.6	3.8	3.6	福岡県	4.5%
(順位)	(21)	(23)	(20)	(23)	(18)	群馬県	3.5%

## 分析

- 大都市圏の神奈川県等と比較して満足度が低く（開業率も全国平均以下）、特に30代、40代の満足度が低い
- 大都市圏は、起業が比較的容易だが、本県の主力産業である製造業は初期投資が大きいいため、新規創業が難しい
- 一方、多くの中小企業が事業承継期を迎えている。
- 静岡県には、引き継いだ既存の人材や技術などの経営資源を活かした新規事業の創出が適している

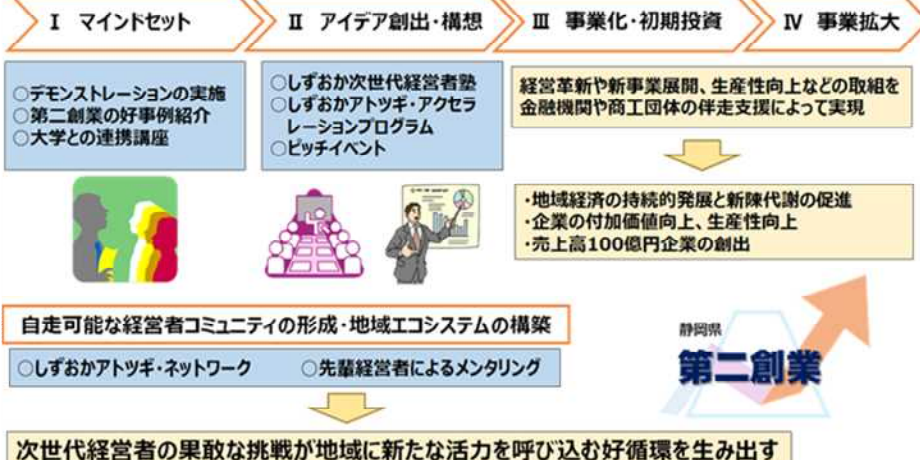
※ 本ページ以降に記載の事業のうち、交付金申請の都合により2月補正とした経費は、事業費に含んでいます。

## 政策立案

- 30～40歳代の満足度を高めるため、若手経営者（候補）に対する「次世代経営者塾」を開催
- 特に成長志向の高い経営者に対して、ビジネスプランの構想から事業化までを伴走支援（アクセラレーションプログラム）
- アクセラレーションプログラムの成果発表のピッチイベントを開催し、外部投資家とのマッチングを支援

### 第二創業の促進

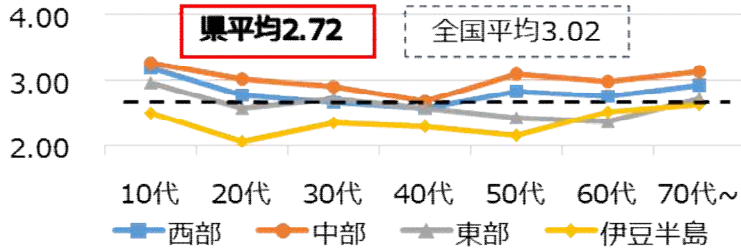
後継者等の第二創業の担い手が自社の経営資源を見つめ直し、事業の可能性を構想から実装まで一貫して磨き上げるなど、新たな挑戦を始めるための環境づくり



第二創業促進事業費（新規） 2,000万円

## 主観指標

Q 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動できる



### < 県内乗合バスの推移 >

区分	運行路線		伸び率 (%)
	2013	2023	
事業者	1,675	1,324	△21.0
市町自主運行	288	412	+43.1
計	1,963	1,736	△11.6

## 分析

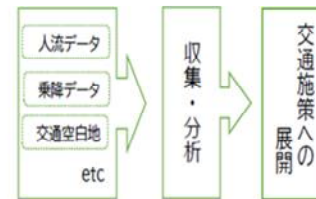
- 静岡県の移動・交通分野の数値は、**年代、地域を問わず満足度が低い**
- 乗合バス路線の全体数は減っているが、**市町自主運行バスの割合は増加しており、公の負担が増える傾向**
- 移動の確保は生活の満足度につながるが、**バスなどの路線維持は、困難になりつつある**

## 政策立案

- **乗降データ等の分析**に基づく交通施策を展開
- 市町の圏域を超えた**広域共同運行による公共ライドシェア**等の展開を支援
- 自動運転を実装するため、**国補助に県単独で上乗せ補助する集中支援**を行い、**全県に展開**

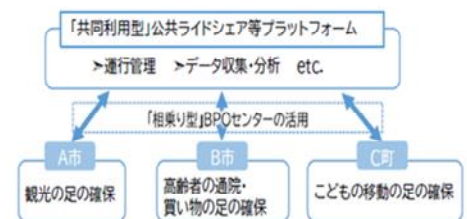
### ○データに基づく交通分析

人流データや交通事業者が所有するデータ等を分析し、県内交通の最適な役割分担を整理



### ○公共ライドシェア等共同運行管理

公共ライドシェア等の実施に必須となる運行管理について、民間のノウハウを活用し、市町が共同で利用できるプラットフォームを構築



### ○自動運転実装化支援

自動運転バスの早期の社会実装を目指し、先進自治体の実証実験を財政面から支援

- R8は**新富士駅～富士駅間**で実証実験を行う富士市を支援
- ロールモデルとして県内各地域で自動運転サービスを展開



▲ 自動運転バス (イメージ)

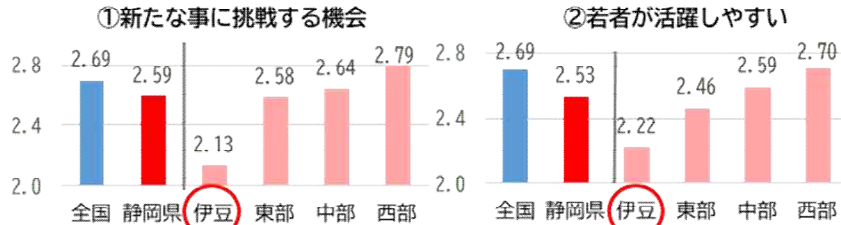


▲ 路車協調システム (イメージ)

**地域公共交通「静岡リ・デザイン」推進事業費 (新規)**  
**9,300万円 [2月補正含む]**

## 主観指標

- Q ①暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある  
 ②暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある



(参考：R6静岡県への移住に関する調査)

### 静岡県への移住希望地域

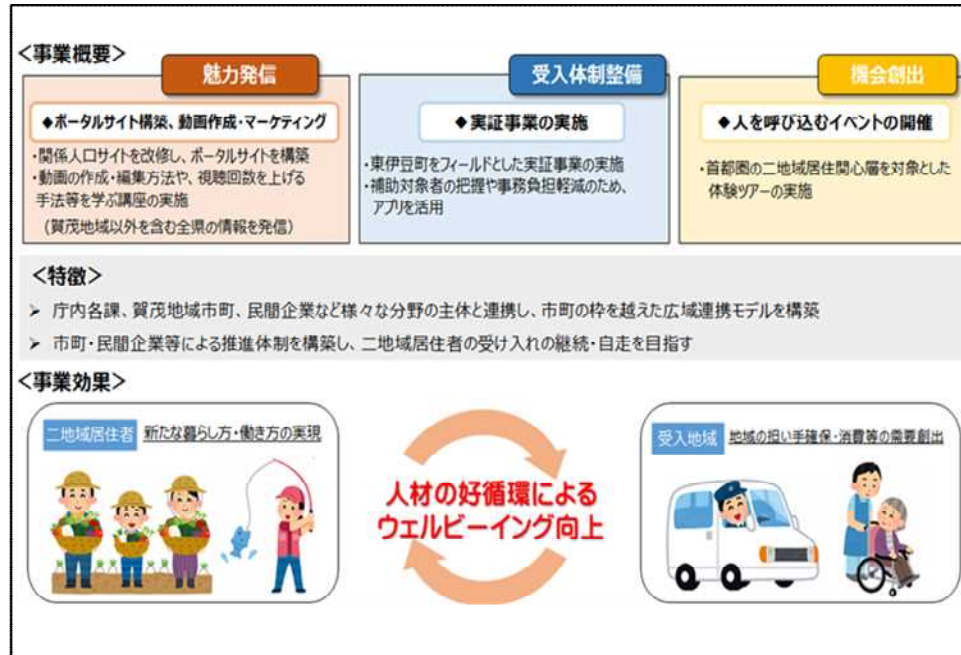


## 分析

- 人口減少・高齢化により地域の担い手が不足しており、**事業創造や若者活躍に対する満足度が低い**  
特に、人口減少が著しい伊豆地域は、満足度が低い傾向
- 人口減少社会の中で、地域の豊かさを維持するためには、**都市と地方の人材の好循環を生み出す**ことが有効
- 静岡県は、首都圏に近接する「**二地域居住**」の適地  
特に、伊豆地域は移住先として人気が高く、関心層にアプローチしやすい

## 政策立案

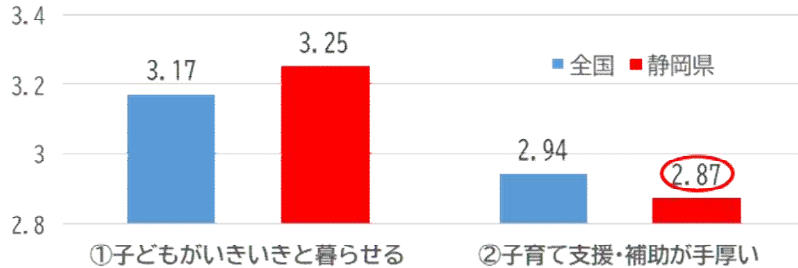
- 県の魅力を発信するほか、東伊豆町をフィールドとして、**交通費、住居費の負担**の実証事業を実施
- 民間企業と連携して**首都圏から人を呼び込む体験ツアー**を開催



**二地域居住推進事業費（新規） 910万円**

## 主観指標

- Q ①暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる  
②暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い



(参考：客観指標)

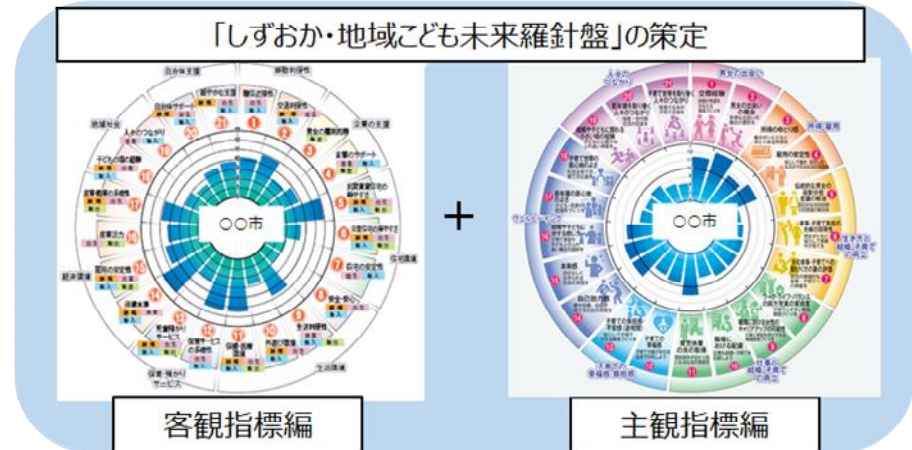
- ・子育てが社会から応援されていると思う県民の割合：**35.4%**
- ・静岡県合計特殊出生率：**1.19** ※過去最低 (R6)

## 分析

- 子どもの生活環境への満足度が高い一方、子育てが社会から応援されている実感が低く、**親の負担感が大きい**
- 子育ての様々な支援策が、**子育てしている人に実感を伴って届いていない**
- 少子化が進む中、その抑制を図りつつ、**満足度の向上につながる「少子化に適応した子育て環境の整備」**に取り組むことが効果的

## 政策立案

- 子育てに関する主観調査を行い、住民の価値観や子育てニーズを見る化する「**しずおか・地域子ども未来羅針盤**」(主観指標編)を策定
- 市町等が策定する**少子化対策、少子化に適応した子育て環境の整備に関する**戦略に基づく取組を支援**
- 地域とともに子育て環境の改善に取り組む民間事業者や団体を支援**(子育て応援パーキング、ベビーカーシェアリング等)

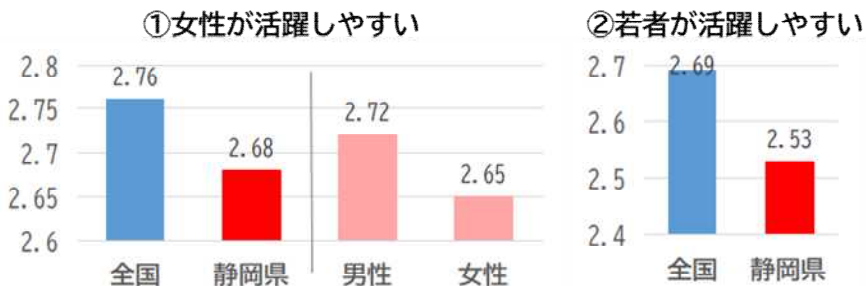


市町と連携して、地域課題に適応した子育て環境整備戦略(ロジックフロー)を策定

**しずおかみんな子育て応援事業(新規)**  
**8,400万円**

## 主観指標

- Q ① 暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある  
 ② 暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある



(参考：客観指標)

大学進学者 (女子) の理系進学割合

(単位：人、%)

区分	R2	R3	R4	R5	R6	計
進学者数	8,583	8,280	8,420	8,332	7,920	41,535
理系	1,703	1,825	1,853	1,944	1,817	9,142
割合	19.8	22.0	22.0	23.3	22.9	22.0

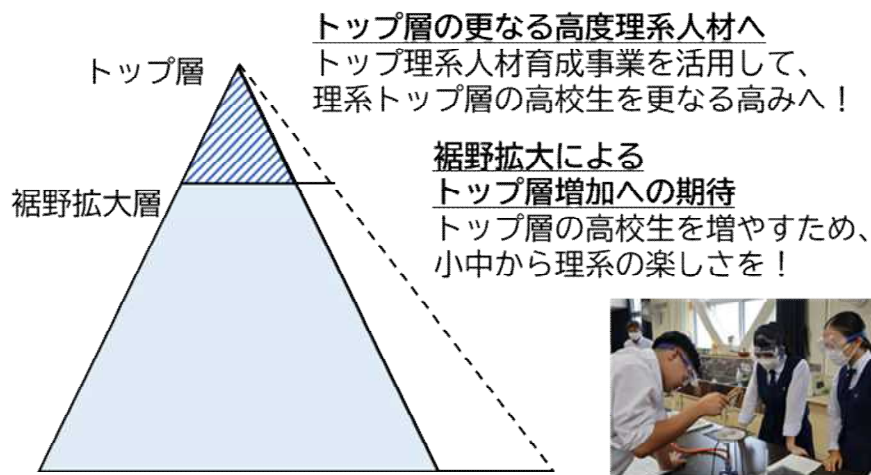
## 分析

- 大学進学先で理系分野を選択する女性の割合が低い
- 中学校卒業時に理系能力の大きな男女差はないが、大学入学時に女性の割合が大幅に減ることから、進学先や職業に対するアンコンシャスバイアス (無意識の思い込み) が影響していると考えられる

## 政策立案

- 進路選択前の早い段階から、小中学生や保護者に対して、多様なロールモデル・キャリアパスを提示
  - ・女性のトップランナーによる講演
  - ・女性起業家や先輩技術者等とのサイエンスカフェ (座談会)
- 保護者に向けた ジェンダーバイアス解消セミナー の実施
- 小中学生を対象にした企業見学や体験講座の開催

持続的な成長と社会課題の解決に不可欠な  
意欲と能力に溢れる理系人材を育成



理系人材育成事業費 (新規) 4,000万円

## 主観指標

- Q ①町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある  
②私は、見知らぬ他者であっても信頼する  
③私は町内の人々が自分をどう思っているかが気になる  
④女性が活躍しやすい ⑤若者が活躍しやすい



静岡県多文化共生基礎調査 (R6)

外国人が日本人に親しみを感ずる割合	70.1%
日本人が外国人に親しみを感ずる割合	45.7%

Q 日本人は、外国人が地域の活動に参加できるよう支援すべきだ



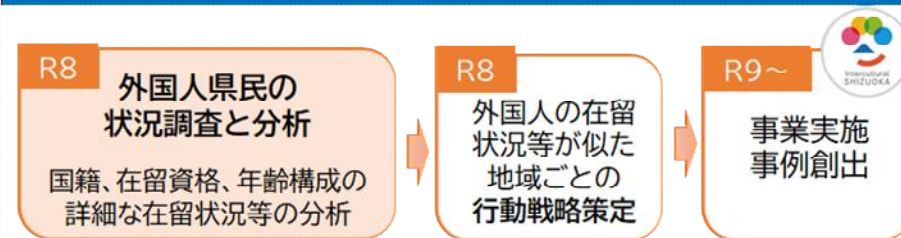
## 分析

- 静岡県民は「多様性・寛容性」が低く、日本人県民が外国人に親しみを感ずている割合は、外国人県民が日本人に親しみを感ずている割合に比べ低い
- 一方で、外国人の地域活動への参加を支援すべきと考える県民の割合は高く、**外国人が地域の担い手として活躍することを求めている**
- 本県の外国人の在留状況は、地域によるばらつきが大きいため、**地域ごとの実態に適した対策が効果的**

## 政策立案

- 外国人も日本人も相互に理解し合い、安心して暮らし、活躍することが出来る「インターカルチュラル社会」の実現を目指す
- 行動戦略策定の基盤となる**外国人県民の状況を調査・分析**
- 日本語教育の質の向上を重視した中級レベルの**オンライン日本語教育カリキュラムの作成・試行**

### 外国人県民の状況調査・分析



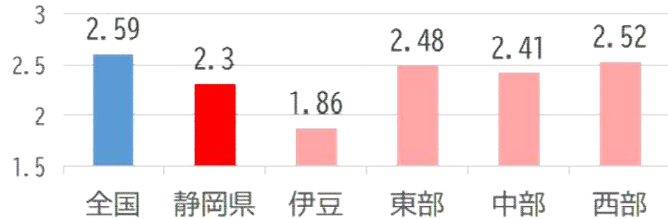
### オンライン日本語教育カリキュラム作成・試行



**インターカルチュラル社会実現事業費 (新規)**  
**5,680万円**

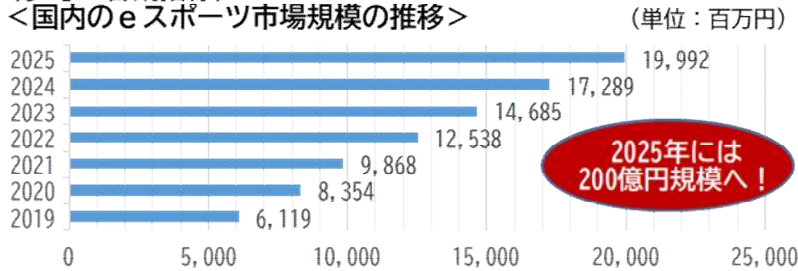
## 主観指標

Q 私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある



(参考：客観指標)

<国内のeスポーツ市場規模の推移>



## 分析

- 遊び・娯楽の満足度は、特に伊豆半島地域で低く、地域差が大きい
- eスポーツは、娯楽性が高く、老若男女・障害の有無を問わず誰もが参加できるとともに、オンライン上で行うため、地域差がなく、市場の拡大も予想される
- 県民の娯楽の満足度を高めるほか、幅広い産業への波及や雇用の創出など、高い政策効果が期待できる

## 政策立案

- 県民に親しみのあるリアルスポーツ※をバーチャル空間で体験できるイベントや富士スピードウェイを活用したモータースポーツのリアル×バーチャルイベントを実施し、eスポーツの裾野を拡大  
※サッカー、野球、自転車等
- テックビート静岡や静岡SOIPにおけるイベントを通じ、県内外の企業間連携やマッチングを創出

## リアルスポーツとeスポーツの融合

モータースポーツ



eモータースポーツ



©iRacing

富士スピードウェイでのeモータースポーツ体験 (企業提案)

eスポーツ未来共創事業費 (新規) 1,750万円